月刊 しぼうら

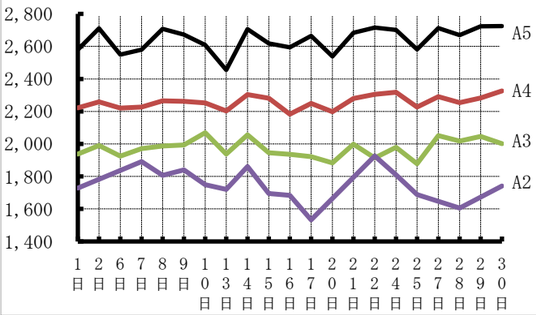
2023年 12月号

牛肉営業部

＜11月の相場動向＞

相場動向として和牛、交雑については前月を上回ったものの、前年割れの展開となった。11月前半まで気温が高かったことや、野菜の高騰などにより鍋物需要が振るわなかったこともあるが、消費者の節約志向による牛肉需要の低迷という状況が根本的に変わってはいない。また、訪日外客数の入国者数については10月の推計値で251万6千人、2019年の同月比として100.8%と、コロナ前を上回ったものの、訪問先が分散する傾向がみられ、インバウンドによる牛肉需要の実感は少ない。

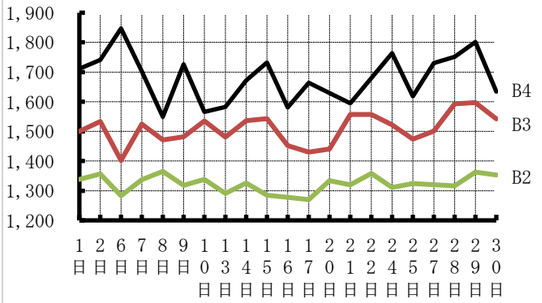
和牛去勢　日別相場表（11月）



和牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,654円	-21円	99.2%	+98円	103.8%
A4	2,260円	-135円	94.4%	+177円	108.5%
A3	1,970円	-204円	90.6%	+134円	107.3%
A2	1,749円	-191円	90.2%	+130円	108.0%

交雑去勢　日別相場表（11月）



交雑去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,696円	-33円	98.1%	+54円	103.3%
B3	1,520円	+2円	100.1%	+80円	105.6%
B2	1,322円	-15円	98.9%	+68円	105.4%

乳牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	―	―	―	―	―
B2	785円	-370円	68.0%	-58円	93.1%

＜12月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、10月の輸入量は前年同月比17.1%減の4万313tで、うちチルドは15.3%増の1万6,777tと上回った。フローズンは30.9%減の2万3,536tと大きく下回った。

農畜産業振興機構によると11月の牛肉輸入数量は、前年同月比9.7%減の3万5,600t（チルド14.3%減・冷凍5.9%減）、12月は2.8%減の3万6,400t（チルド1.7%増・冷凍5.8%減）で予測している。12月のチルドは豪州産が増加することから前年同月をわずかに上回ると予想、フローズンは国内の輸入品在庫が多いことや、北米産の現地高により輸入量が少なくなる見込みで、前年を下回ると予測している。

輸入牛肉通関量		10月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	7,986	5,184	154.1%
	米国	7,524	7,976	94.3%
	その他	1,267	1,396	90.8%
	合計	16,777	14,556	115.3%
フローズン	豪州	11,058	12,497	88.5%
	米国	8,075	13,889	58.1%
	その他	4,403	7,694	57.2%
	合計	23,536	34,080	69.1%

出典：食肉速報　　単位：t

＜12月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による12月の出荷予測頭数は、全体で前年比106.4%の10万5,400頭で、品種別にみると和牛は11.8%増の5万2,400頭、交雑種は7.7%増の2万4,700頭、乳用種は2.8%減の2万6,800頭と予測している。

東京食肉市場の12月のと畜頭数は7,940頭を予定しています。

＜12月の牛枝肉相場見通し＞

12月に入り末端消費はまだまだ弱いものの、相場は堅調に推移している。高騰していた野菜価格も落ちつきつつあり、鍋物需要の活性化に期待したい。しかし、出荷予測では和牛・交雑共に増える見込みで、需給のバランスが崩れ、相場が中だるみとなる可能性もある。

来年のセリ始めが1月9日と例年に比べて遅いことから、12月最終週の相場は堅調に推移することが考えられる。消費者の節約志向は継続するとみられるが、クリスマスに正月とイベントが続くことから、節約疲れからのハレの日需要に期待したい。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,550～2,800	B4	1,500～1,650
A4	2,400～2,500	B3	1,350～1,450
A3	2,150～2,200	B2	1,200～1,300
A2	1,850～1,950		
乳牛去勢			
B3	950～1,050		
B2	800～900		

豚肉営業部

9月の全国と畜頭数は前年同月比4.9%減の129万頭となった。また、10月の豚肉通関数量は7万198t（7.4%減）と前年を下回り、前月比では13.6%の増加となった。内訳はチルドが3万3,509t（18.8%増）、フローズンは3万6,690t（同22.9%減）と大幅に減少した。

2022-2023年の需給量と推定期末在庫						
	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
10	75,562	75,744	19,698	196,107	75,147	84,109
11	81,124	87,886	18,751	195,556	81,933	88,437
12	79,634	68,853	19,816	185,413	78,413	78,996
1	77,331	74,837	18,538	188,666	78,557	71,584
2	72,899	71,250	19,905	189,121	71,425	70,795
3	81,586	69,027	20,232	189,572	81,112	68,576
4	73,794	109,570	20,573	204,045	73,312	95,096
5	76,116	89,726	20,193	223,902	76,372	69,869
6	73,486	81,311	19,586	225,208	73,928	80,005
7	68,264	74,831	20,758	220,067	66,926	79,972
8	70,175	73,862	21,032	217,704	69,796	76,225
9	69,500	61,727	21,452	203,477	68,945	75,954
10	78,467	70,100	19,689	192,812	80,065	80,765
比	104%	93%	100%	98%	107%	96%

出典：農畜産業振興機構　比：最終月の前年同期比　　単位：t

10月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	13,440	92.3%	デンマーク	3,764	46.4%
カナダ	16,302	141.6%	スペイン	10,296	76.6%
メキシコ	3,752	177.8%	メキシコ	5,847	75.9%
			アメリカ	3,132	114.0%
			カナダ	3,881	144.2%
合計	33,509	118.8%		36,690	77.1%

単位：t

＜11月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	69,400	525	511	706
2日	74,300	514	503	1,050
6日	71,100	494	487	1,017
7日	71,800	503	495	1,099
8日	67,800	505	495	835
9日	74,200	510	500	804
10日	68,500	507	502	1,171
平均	71,014/日			955/日

11月に入り増体量が回復したことで、安定した出荷頭数となり、全国と畜頭数も7万頭を超える日が続いた。相場は上物、中物共に500円絡みの展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
13日	71,600	504	492	865
14日	71,700	505	502	1,140
15日	68,900	515	503	754
16日	70,400	496	488	640
17日	67,500	512	501	1,082
20日	73,000	509	494	859
21日	73,100	513	505	1,113
平均	70,886/日			922/日

全国と畜頭数が7万頭を超える日も珍しくなくなってきた。相場は年末を控え全体的に需要の一服感がみられ、弱持ち合いの展開が続いた。また、円安が続いている影響から輸入チルドポークの品薄感が強まり、国産物へのシフトするケースがみられ始めた。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
22日	72,900	513	500	993
24日	70,000	527	511	975
27日	69,100	536	527	905
28日	71,200	568	552	888
29日	71,000	576	551	636
30日	70,600	570	557	624
平均	70,800/日			837/日

12月を前に全国と畜頭数は7万頭台で安定した状況になった。また、輸入物から国産物へとシフトしたことで、相場は徐々に上昇する展開となり、上物・中物共に500円台後半の展開となった。

＜12月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による令和5年12月の肉豚出荷予測では148万4,000頭（前年同月比102%）と予測している。

当市場の12月集荷予定せり頭数は1万8,500頭、1日あたりでは約881頭を見込んでいます。

農畜産業振興機構によると12月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万200t（同102%）、内訳はチルド輸入量が3万1,600t（同118.7%）、フローズン輸入量は3万8,600t（同91.4%）と予測。

チルド輸入量は前年の北米産の輸入量が少なかったこと等から前年同月を大幅に上回ると予測する。また、3ヵ月平均では前年同期をわずかに上回ると予測する。

フローズン輸入量は国内の輸入品在庫が多いことや、欧州・メキシコ産の現地相場高騰及び円安の影響から前年同月を大幅に下回ると予測する。同じく3ヵ月平均でも前年同期を大幅に下回ると予測する。

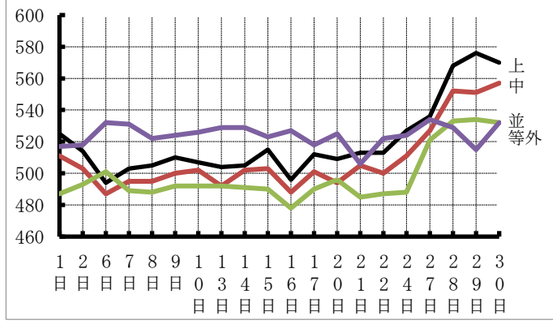
例年12月は年末年始の需要に向けた引き合いがピークを迎える。気象庁の長期予報によると今冬は全国的に気温が高く暖冬傾向と予想されているが、鍋物需要による実需は堅調に推移するとみられ、中部位の動きが更に良化することが期待される。

供給動向は産地によって呼吸器系疾病の発生がみられるものの、中旬から最終週の前半まで出荷頭数は全国的に順調とみられており、極端な動きは無いことが予想される。

輸入豚肉は在庫こそ多いものの、円安の影響で全体的にタイトな状況にあり輸入量が若干増える見込みだ。

以上のことから当市場の上物平均価格は550円前後、中物平均価格520円前後の展開と予測する。

豚　日別相場表（11月）



東京都港区港南2－7－19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127